



アイルランドへようこそ

Welcome to Ireland

アイルランドは独特の魅力を持つ地です。ヨーロッパの西端に位置するこの小さな島には、比類のない伝統文化と、誇り高い国民性があります。

アイルランド島は、強い歴史感覚に貫かれています。人の定住は9000年前にさかのぼり、石器時代の遺跡から、崩れかけの古城や中世の街路に至るまで、あらゆるところに過去の残像を見出すことができます。

現代のアイルランドを象徴するのは、ダブリンとベルファストという活気に満ちた2つの中心都市、数々の個性的な町や村、そして何よりも、フレンドリーな地元の人たちでにぎわう居心地のよいパブです。

アイルランドの魅力は何ものにも代えられません。アイルランドを訪れる旅人は、その魅力を伝統楽器バウロンやランベグ・ドラムの躍動するリズム、緑豊かな谷間、壮大な断崖絶壁といった光景に感じ取ることでしょう。

アイルランドの魅力は、この地に足を一歩踏み入れたとたん、旅人の心を捉え、生涯忘れぬ思い出となって残るでしょう。

アイルランドって どんなところ？

アイルランド島は、ヨーロッパの西北端に位置する、ヨーロッパで3番目に大きな島です。南北は約450km（東京－大阪間と同程度）で、東西は約300km（東京－名古屋間と同程度）ほど。

グレート・ブリテン島とは、アイルリッシュ海で隔てられており、アメリカ合衆国との間には大西洋が広がっています。

アイルランドが島の6分の5を占め、それ以外を北アイルランド（グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国を構成する一地域）が占めています。

全島の総人口は約630万人で、人口の半数以上が30歳未満です。

島内では主に英語が話されています。



- 4 母なる大自然の傑作
- 6 ダブリンで過ごす48時間
- 9 ベルファストで過ごす48時間
- 12 アイルランド各地をめぐる
- 15 アイルランドの歴史に出会う旅
- 18 贅沢を楽しむ旅
- 21 癒しのひととき
- 22 英語を学ぶ：おしゃべりな国、アイルランド
- 25 伝統を買うショッピング
- 26 アイルランドの味わい
- 28 音楽：アイルランドのリズム
- 30 スポーツ観戦とアウトドア・アクティビティ
- 32 旅の計画
- 34 おすすめドライブ・プラン



アイルランド政府観光庁

発行：アイルランド政府観光庁
www.ireland.com

駐日アイルランド大使館
www.dfa.ie/japan

編集およびデザイン：Maxmedia Ireland

アイルランド政府観光庁 (Tourism Ireland) はアイルランド島のマーケティング機関であり、アイルランドと北アイルランドをその対象としています。本冊子の編纂に当たっては、正確を期するために最善の注意を払っていますが、アイルランド政府観光庁とその代行機関は、誤りと遺漏に対する責任を負うことができません。ただし、そのような誤りや遺漏の指摘を受けた場合は、将来の刊行時に適宜修正されます。本冊子で使用されている画像の提供元は、Tourism Ireland、 Fáilte Ireland、Northern Ireland Tourist Board、および Shutterstock.com です。

母なる大自然の傑作

緑豊かなアイルランドには、「40種類の緑」(Forty Shades of Green) があると言われています。これは本当ですが、それがすべてではありません。大西洋はこの島を深い青緑のターコイズブルーで縁取っています。山々は咲き誇るヒースの紫や、ハリエニシダの黄色に彩られます。そして、黄金色の砂浜が海岸線を描いています。

それは、訪れる者の魂を癒してくれる風景です。

「母なる大自然はケリーまで南下し、海に島々を宝石のように散りばめ、大地から山々を隆起させた」

母なる大自然は、アイルランドの大西洋岸に壮大なモハーの断崖を聳立させました。目もくらむような高さに切り立つこの断崖は、崖上を一面の緑に覆われ、白く波立つ海を見下ろしています。断崖に暮らす海鳥に聞けば、きっと「海面まではかなりの距離ですよ」と答えるでしょう。さらに大自然はケリーまで南下し、海に島々を宝石のように散りばめ、大地から山を隆起させました。西海岸沿いのゴールウェイ、メイヨー、そしてスライゴでは、海岸線に未開の砂浜を横たえ、丘や小山の間にガラスのようにきらめく湖を落としていきました。さらに北上したアントリムでは、ジャイアンツ・コースウェイの玄武岩の柱がそれぞれ完全な六角形を成して立ち並び、海中へと延びています。ダウン県を内陸に入れば、モーン山地が起伏して丘と谷をめぐらせています。この山地の峰々からインスピレーションを得て、作家C.S.ルイスはナルニアの風景を創造しました。

そうです、アイルランドは母なる大自然がその魅力を十分に発揮した場所なのです。皆さんにもきっとお楽しみいただけると思います。

とっておきのドライブ・ルート

ご自身での運転でも、運転手付きのドライブでも、ツアー・バスの旅でも楽しめるルートをご紹介します。風光明媚なドライブ・ルートはたくさんありますが、特におすすめのルートは次の2つです。

【ケリー周遊路】

西南海岸を巡る珠玉のドライブウェイです。キラーニー国立公園を起点として、海岸沿いを走り抜けるこのルートは、終始、壮大な大西洋を間近に望みながら、ケンメア、ウォーターヴィル、スニームといった昔ながらの村を通っていきます。

【コースウェイ沿岸道路】

東北部、ベルファストとデリー-ロンドンデリーの二都市間を結ぶルートです。道中にはクーシェンダン、バリーキャッスル、ポートラッシュなどの海辺の街が点在し、崖の上のダンルース城、ジャイアンツ・コースウェイ、そしてキャリック・ア・リード吊り橋などの見どころがあります。

ダブリンで過ごす 48時間

首都ダブリンはアイルランド島の東海岸に位置し、一方を海に、他方を山に抱かれるように佇んでいます。文学の街として広く知られており、サミュエル・ベケットやジェイムズ・ジョイスらの所縁の地となっています。石畳の道沿いには、ギャラリーとカフェが立ち並び、壮麗なジョージ王朝様式のタウンハウス（連棟住宅）が優美な雰囲気醸し出しています。

ダブリンは、歴史と温かい心のある街です。そして、気軽に散策を楽しむことができる街です。

ヴァイキングによって造られた都市

まずは、ダブリニア博物館を訪ね、この街の最初期の質素な姿に触れてみましょう。ロングボート（ヴァイキングが使った長い漕艇または帆船）の展示と中世の再現シーンが、過去の様子を雰囲気豊かに伝えてくれます。あるいは、市内の見どころを賑やかに観光できるヴァイキング・スプラッシュ・ツアーに参加してみましょう。配られた角付きのヘルメットをかぶれば、気分はもうヴァイキング！

乾杯！

ほら、漂ってくるこの匂い、お気づきですか？そう、アイルランドが世界に誇る黒ビール「ギネス」です。ダブリンの中心を流れるリフィー川のほとりに醸造所があり、博物館「ギネス・ストアハウス」が併設されています。見学ツアーでギネスの歴史や醸造工程を学んだら、最上階のバーで出来立てのギネスを試飲できます。ダブリンの街を見渡す、素晴らしい眺めを楽しみながらどうぞ。



アイルランド国立博物館、ダブリン



街中のパブでちょっと一息

テンプルから文化へ

テンプルバー地区は夜の賑わいもさることながら、日中は、首都ダブリンの文化の中心地としての魅力が輝きます。石畳の道には、グラフィック・スタジオをはじめとするブティック・ギャラリーや、個性的なカフェなどが立ち並んでいます。プロジェクト・アーツ・センターでは前衛的な戯曲が次々に上演されており、有名なパブ「オリバー・セント・ジョン・ゴガティ」で繰り広げられる伝統音楽のセッションでは、アイルランドの音楽遺産に触れることができます。もちろん、アイルランド映画協会や、ミーティング・ハウス広場の写真美術館を訪ね、さまざまなレンズを通して捉えられたアイルランドを眺めてみるのもおすすめです。



リフィー川に架かるハーフペニー橋



パワーズコート・タウンハウス・ショッピングセンターで買い物



ダブリンのレンタサイクル（City Bike）システムを利用すると気軽に市内を周遊できる

最も愛されている書物

街の中心部に位置するトリニティ・カレッジ・ダブリンでは、素晴らしい建築と美しい芝生の緑に目を奪われます。構内には、サミュエル・ベケット劇場、クリケット・パビリオン、ダグラス・ハイド・ギャラリーが設置されているほか、図書館では8世紀に描かれた装飾写本の傑作『ケルズの書』が展示されています。ケルトの装飾文字や渦巻模様、人物や動物の美しい挿絵が緻密に描かれており、熱心な信仰心を伝えるこの作品は、見る人すべてに驚異の念を抱かせます。



チェスター・ビーティー図書館



トリニティ・カレッジ・ダブリン

ダブリンの食を堪能する

グラフトン・ストリートに面するカフェ「ビュリーズ」のアーチ天井とステンドグラスの窓の下で味わうアイリッシュ・ブレックファストは、ダブリン市民の特別な朝ごはんです。伝統的なパブやカフェをめぐるウォーキングツアー「ダブリン・テイステイング・トレイル」も、この街の食文化を訪ねる方法の1つ。また、レストラン・パトリック・ギルボーやチャプター・ワンをはじめとした、ミシュランの星に輝くレストランも魅力的です。そして、レストランとパブ、両方のいいところ取りをしているのが、「ガストロ・パブ（美食パブ）」と言われる、本格的な料理を提供するパブ。美味しい料理と手頃な価格で、旅行者にも人気です。代表的なお店は、ジ・エクスチェッカー、ザ・チョップハウス、ジ・イーライなど。



ビュリーズでカフェタイム

グレンダーロホ（ウィックロウ県）



ダブリンから足をのばして…

ダブリンの南、豊かな自然で知られるウィックロウ県は、「アイルランドの庭」と呼ばれています。特に、ヒースの花によって山肌が一瞬紫色に染まる景色は圧巻。また、修道院遺跡も世界的に有名で、代表格は初期キリスト教の聖地グレンダーロホ（ダブリンから40分）。遺跡の周囲には山地が広がり、国立公園に指定されています。ウォーキング・シューズは必携。また、パワースコート・ハウス&ガーデンにはダブリンからわずか20分で到着。アイルランドで最も美しいと言われる庭園と壮大なバラディオ様式の邸宅に800年の歴史を見て取ることができます。

ダブリン西方のキルデア県は、馬の産地として有名。サラブレッドの飼育・調教で知られるアイリッシュ・ナショナル・スタッドには、馬事博物館や日本庭園もあります。お腹が空いたら、バリーモア・ユースタスの村にあるレストラン「バリーモア・イン」へ。シックな流行はキルデア・ビレッジのデザイナー・アウトレットでチェック。

ダブリンの夜

オスカー・ワイルド、サミュエル・ベケット、バーナード・ショーといった偉大な劇作家の存在に後押しされ、ダブリンはユネスコから「文学の都市」に指定されました。アビー劇場、ゲイト劇場、プロジェクト・アーツ・センターなどでは、今も毎晩さまざまな作品が上演されています。文学に関連した観光ツアーもあります。「リテラリー・パブ・クロール」は、ガイド役の俳優が演技を交えながら文学作品とゆかりのある市内のパブを案内するツアー。「ゴースト・バス・ツアー」は、ダブリンに伝わる怖い話に浸るツアーです。ナイトクラブを探すなら、ハーコート・ストリートや、ジョージズ・ストリート、デイム・ストリートへ。夜遅くまで活気にあふれています。

豆知識

多くの有名作家を輩出してきたダブリン。その伝統は今も続いており、1968年に創設された英国の文学賞「ブッカー賞」の歴代受賞者には3人のダブリン出身の作家がいます（アイリス・マードック、ロディー・ドイル、アン・エンライト）。最近では、ウェックスフォード出身でダブリン在住のジョン・バンヴィルが小説『海に帰る日』（原題: The Sea）によって同賞を受け、「ダブリンゆかりの受賞者」の仲間入りを果たしました。

シティー・ガイド

ベルファストで過ごす 48時間

自信と創造性、そして現代的な雰囲気にあふれた街ベルファストは、シティー・ブレイク（都市滞在型休暇）にぴったりの街。魅力的な歴史、素晴らしい博物館、そしてナイトライフも充実したベルファストは、思い出に残るヴァカンス先として必要なすべての条件を兼ね備えています！

この街の主な見どころは、週末の2日間に凝縮できます。では、その方法をご紹介します…。



タイタニック号誕生の地：ハーランド・アンド・ウルフ社の造船所

タクシーで街をめぐる

ブラック・キャブ（黒塗りタクシー）での観光は、ベルファストの名物です。フレンドリーで知識豊富なタクシー・ドライバーは、まるで歴史のプライベート・レッスンのように、この街について生き生きと語ってくれます。ベルファストには100年以上に及ぶ壁画の伝統があり、必見の観光スポットになっていますが、壁画めぐりをするならタクシーが一番。この伝統と未来について、ドライバーが分かりやすく解説してくれるでしょう。カメラをお忘れなく！

アルスター博物館を鑑賞

恐竜の卵、海底から回収された宝石、そしてエジプトのミイラは、アルスター博物館の貴重な展示品のごく一部に過ぎません。アイルランドの先史時代から、地質学、ヨーロッパの美術、そして近代の政治的混迷の歴史に至るまで、博物館

は多くの驚きと発見の場であり、特に子どもたちには必見です。

音楽をたどる

「ブラウン・アイド・ガール」、「ウィスキー・イン・ザ・ジャー」、「チェイシング・カーズ」……どれも、お馴染みの歌のタイトルですね。そう、ヴァン・モリソンや、ゲイリー・ムーア（シン・リジィのギタリスト）はベルファスト生まれ。また、スノウ・パトロールのメンバー2人は近隣のダウン県出身です。「ベルファスト・ミュージック・ツアー」では、そうしたスターたちの誕生の背景に目と耳で触れることができます。この街の音楽の歴史にゆかりの場所を訪ねる、音楽三昧のバスツアーです。



ベルファストで楽しむ素敵な料理



クラウン・リカー・サルーン

豆知識

1997年の大ヒット映画『タイタニック』のジェームズ・キャメロン監督は、2012年9月にベルファスト・タイタニック博物館を訪れた際、その展示に感銘を受け、映画で使われた道具を博物館に貸与しました。館内には、出演した俳優レオナルド・ディカプリオとケイト・ウィンスレットの着ていた衣装や、キャメロン監督のオフィスに何年も置かれていた舵輪といったものまで展示されています。

タイタニック・タウンを訪ねる

ベルファストでタイタニック号の遺産を見逃すわけにはいきません。ベルファスト・タイタニック博物館は、20世紀初頭に当時世界最大級の客船として建造された豪華客船タイタニック号を記念・追悼する施設で、非常に高い評価を受けています。星をかたどった外観が特徴的なこの博物館では、映画『アバター』で利用された3Dテクノロジーを含む動画やハイテク技術を駆使した展示で、タイタニックの物語を紹介しています。

文化を飲み歩く

かつてベルファスト最古の区域であった聖アン大聖堂周辺には、今ではお洒落なホテル、ワインバー、ビストロが、伝統的なパブとともに並んでいます。また、この地区はベルファストの有名なパブを訪ね歩く「ヒストリカル・パブ・ウォーキング・ツアー」のコースでもあります。ツアーのハイライトは、街の中心近くに位置するクラウン・リカー・サルーン。ヴィクトリア調の内装をそのままに残し、ガス灯に照らされた凝った装飾のバーは、この街を祝して乾杯するのに最適な場所です。



音楽は Oh Yeah で始まる

ベルファストから 足をのびして…

ユネスコの世界遺産に登録されているジャイアンツ・コースウェイは、推定4万個もの玄武岩の六角柱が海岸を埋め尽くす、壮大な自然の芸術。ベルファストから車でわずか1時間の距離にあります。ガラス張りが眩しい最新設計のビジターセンターにもお立ち寄りください。そこからコースウェイ沿岸道路に入れば、キャリック・ア・リード吊り橋や、崖の端に建つダンルース城など、目を見張るような光景が連なります。休憩にはブッシュミルズ蒸留所で、ガイド付きツアーに参加してウイスキーを試飲してみましょう。ひょっとすると、醸造所に住み着いているという幽霊に出会えるかも!?

また、アントリムの海岸沿いには、アイルランドで最も古い城の1つと言われるキャリックファーガス城(1180年建造)もあります。ベルファストから北へ車で15分、またはセントラル駅/ヨークゲート駅から鉄道で行くことができます。



キャリック・ア・リード吊り橋を渡る



ダーク・ヘッジズ(アントリム県)

夜遊びのススメ

ベルファストの夜は華やかです。メトロポリタン・アーツ・センターでは、音楽・演劇・ダンス・アートとさまざまなショーが楽しめます。クラシック音楽なら、アルスター・ホールでアルスター・オーケストラをご堪能ください。素敵なバーをお探しなら、ファッショナブルなマーチャント・ホテルへ。豪華な雰囲気の中でゆったりとソファに身を沈め、いくつもの賞に輝いたカクテルを味わってみてはいかがでしょうか。ロック好きなら Oh Yeah ミュージック・センターへ! ジ・アンダートゥーンズ、アッシュ、リサ・ハニガンなど、多くのスターが演奏したライブ・ミュージックの会場です。

ゲーム・オブ・スローンズ

北アイルランドは、ファンタジー小説を原作とした HBO の大ヒット TV ドラマシリーズ『ゲーム・オブ・スローンズ』の主要ロケ地の一つです。中世の城、4億年前から存在する洞窟、印象的な山並み、そして、不気味な様相のブナの並木道「ダーク・ヘッジズ」など、この作品の撮影にぴったりの壮大な景観が広がっています。ぜひ、ロケ地を巡り、ご自身の足で物語の舞台「ウェスタロス」の冒険をお楽しみください。また、作品に登場する豪華な王冠や宝飾品が数多く作られた工房スティーンソンズ・エコノミューゼ、作品にちなんだアーチェリーレッスンを受けられるキャッスル・ワードなどもおすすめです。

アイルランド各地を めぐる

アイルランド島には、ほかにも個性的で魅力あふれる都市がたくさんあります。日帰りや一泊旅行で出かけてみては？

コーク：クロフォード市立美術館

コーク

コークは理想的な規模の都市です。市内の見どころはすべてが徒歩圏内にあり、街の中心を流れるリー川には多くの橋が架かっているので散策も楽々。ルイス・グラックスマン美術館（アイルランド国立大学コーク校のキャンパス内）と、クロフォード市立美術館に行ってみましょう。いずれも一流の美術館ながら、入館は無料です。それから、パトリック・ストリートでのショッピングをお楽しみください。

そのほか、ヘイフィールド・マナー・ホテルのレストラン「オーキッズ」、カフェ・パラディソ、アイザックスなどでの食事、モダンなオペラハウスでのコンサート観賞、謎めいたコーク市刑務所のナイトツアーなど、お楽しみはたくさん！

また、コークは、アイルランドのグルメの都です。その象徴が、1788年から続く歴史ある市場「イングリッシュ・マーケット」。コークに行くならぜひここ

を訪れて、この街が美食で知られる所以を味覚と嗅覚で感じ取ってみましょう。地元産のチーズとお肉を買ってピクニック・ランチでも、あるいは、マーケット内のファームゲート・カフェでゆっくりと料理を堪能しても良いでしょう。

コークから足をのびして…

ブラーニー城は必見。城の最上部にある石「ブラーニー・ストーン」にキスすると雄弁になれると言われています。それから、タイタニックの最終寄港地となったことで有名な港町コーヴ、そして、シーフード・レストランや素敵なパブで有名なキンセールもおすすめ。これらはすべて、コークの市境から列車もしくは車で簡単にアクセスできます。



コーク：イングリッシュ・マーケット



コーク周辺：市の西側に広がる素晴らしい眺め

デリー - ロンドンデリー

2013年の「英国文化都市」に指定されたデリー-ロンドンデリーは、笑顔のあふれる街です。ぜひ400年前に作られた城壁に沿って、市内を散策してみてください。そして、タワー博物館で無敵艦隊の難破の物語とデリーの歴史に触れたら、光きらめくフォイル川に架かるピース・ブリッジをスキップして渡りましょう。旅行ガイド『ロンリープラネット』で、デリー-ロンドンデリーが2013年のおすすめ旅行先都市の世界第4位に選ばれた理由が、きっとすぐに分かるでしょう！

ランチはブラウンズ・レストランで、ドニゴール産のカニにカリフラワーのピューレを添えて。その後は、アート・ギャラリーをはじめとする、市内の優れた文化施設を見てまわりましょう。

デリー-ロンドンデリーの歴史を徒歩でたどる壁画めぐりをしたら、そろそろお腹が空いてくる頃。夕食はレストラン「ジ・エクスチェンジ」で、クルマエビにピノ・グリージョ

で決まり。

夜は、劇場「ザ・プレイハウス」で舞台鑑賞。ベッドに入る前にちょっと大人なアイリッシュ・コーヒーを飲めば、完璧な1日の完璧な締めくくりになるでしょう！

デリー - ロンドンデリーから足をのびして…

街から1時間以内のドライブで、アイルランド島の最北端、荒涼としたマランヘッドに到着します。それから海に沿って進めば、ジャイアンツ・コースウェイの奇観、キャリック・ア・リード吊り橋、そしてロマンティックなムッセンデン・テンプルなどの見どころがあります。



デリー-ロンドンデリー：400年前の城壁から街を眺める



デリー-ロンドンデリー周辺：ジャイアンツ・コースウェイを歩く

ゴールウェイ

大学都市としてのステータス、田舎の村のような優しさ、そして自由奔放な雰囲気を含ませ持った、くつろぎの街ゴールウェイ。アイルランド西部の典型的なライフスタイルを感じられる街です。波止場地域からエア・スクエアまで、狭い路地を散策し、気ままにウィンドウショッピングを楽しみながら、この街の魅力に浸ってみましょう。

土曜日には、まず外に出てゴールウェイ・マーケットでブランチを。それから、アイルランド最古の宝石商トーマス・ディロンズで品定め…。伝統的なケルト模様のジュエリーや、アイルランドの伝統的な結婚指輪として有名なクラダリングがおすすです。

ディナーはシーフードがおすすめです。オスカーズ・ピストロでは、その日の漁で獲れた魚介類を手際よく料理してくれます。ザ・ジー・ホテルは、世界的に有名な帽子デザイナー、フィリップ・トレシーが設計したシックな高級ホテル

で、そのラウンジは一見の価値あり。1日の締めくくりに、ここでコーヒーククテルを楽しんでみてはいかがでしょうか。

夏のゴールウェイは、イベントが目白押し。映画祭や競馬の大会から、オイスター・フェスティバル、そして評判の高いアーツ・フェスティバルまで、多彩な催しの舞台となります。でも実を言えば、ゴールウェイでは毎晩がパーティ・ナイトなのですが…？！

ゴールウェイから足をのびして…

ゴールウェイの西、かつてオスカー・ワイルドが「荒涼の美」と呼んだコネマラ地方には、湖・山・昔ながらの村といった、まるで絵ハガキから抜け出てきたような景色が広がっています。



ゴールウェイ：石畳の路地と個性的なショップ



ゴールウェイ周辺：コネマラの荒野

ほかにも魅力的な街がたくさん！

【**アーマー**】北アイルランドの可愛らしい小都市アーマーは、アイルランドの守護聖人セント・パトリックゆかりの地として知られています。街には2つのセント・パトリック大聖堂があり、それぞれ丘の上に建っています。

【**キルケニー**】美しいキルケニー城を取り囲むように、ブティック、個性的なカフェ、そして上質なレストランが立ち並ぶユニークな街です。

【**ウォーターフォード**】アイルランドの南海岸に位置するウォーターフォードは、914年に到来したヴァイキングによって命名されました。

実際、ヴァイキングによる支配の痕跡が随所に見られ、特にレジナルドの塔と曲がりくねった路地は、この街の魅力を際立たせています。ヴァイキング・トライアングルと呼ばれる地区を探索してみてください。1000歩で1000年の歴史をたどることができます！

【**リムリック**】ジョン王の城がシャノン川を睨むように超然と立ちはだかる中世都市。ミルク・マーケットには美味しい食べ物の誘惑がいっぱい。ピカソ、ダ・ヴィンチ、ルノワールをはじめとする、ハント博物館の素晴らしい絵画コレクションもぜひご覧ください。

【**リズバーン**】アイリッシュリネン産業発祥の地。ここで作られたリネンは英国王室御用達ともなり、タイタニック号にも積み込まれました。また、ジョージアン様式のリズバーン・スクエアには昔ながらの魅力があふれています。

【**ニューリー**】モーン山地の麓に位置する小都市。街を歩いて一周してみましょう。見どころは、第二次大戦中に一時アメリカ兵の寄宿所となった製糖所。また、16世紀に建てられたバグナルの城で、幸運を呼ぶと言われる「約束の石」に願い事をしてみては？

アイルランドの歴史

アイルランドの歴史に 出会う旅

ピラミッドよりも古い墳墓、ヴァイキングが築いた都市、そして、ヴァイキングから逃れるために建てられたラウンド・タワー…。アイルランドの歴史は今の時代にも息づいています。文献の中には見つからない、生きた歴史に出会ってみませんか。

崩れかけた城郭、広大な田舎の屋敷、そして島に建つ修道院は、今なお毅然として強い存在感を放っています。ロマンとミステリーに満ちた歴史に興味をお持ちなら、アイルランドが大好きになるでしょう！

ロック・オブ・キャッシュェル（ティペラリー県）



古代遺跡ニューグレンジの入口（ミース県）

古墳と聖人たち

デリーー・ロンドンデリー県、バン川のほとりマウント・サンデルと呼ばれる場所で、小規模な住居群の跡が堤の上に見つかりました。それは9000年前の遺跡でした。この時代以来、アイルランド島には常に人が住み着いて暮らしを営んできました。

パッチワークのような畑の緑に彩られ、ボイン川が流れる、東部ミース県の誇る史跡—それが、5000年の歴史を持つニューグレンジです。ピラミッドよりも古い墳墓で、屋根の部分が草で覆われており、まるでUFOのような形をしています。異教徒が支配していた時代のアイルランドを垣間見ることのできる貴重な遺跡であり、当時最先端であった工学設計の能力を示す証拠でもあります。

異教からキリスト教へと移り変わるアイルランドの宗教の歴史において大きな役割を果たしたのがセント・パトリックです。後にアイルランドの守護聖人となるセント・パトリックは、少年時代にダウン県のスレミッシュ山で人生を一変させる経験に耐え、のちにティペラリー県のロック・オブ・キャッシュェルで王たちに洗礼を授けました。

ダウン県の野辺、牧歌的でどかな場所に、ソウル教会が

豆知識

アイルランドには長い歴史を持つものが多くありますが、世界最古と言われる日刊紙がアイルランドに存在し、今もなお発行されていることはあまり知られていません。1737年創刊の『ベルファスト・ニュースレーター』です。貴重な初期の紙面が、ベルファストのリネン・ホール図書館に収蔵されています。

隠れています。『ケルズの書』です。約1200年前の書物が今も現存していること自体が奇跡と言えるでしょう。

ダブリンの少し南、ウィックロウの緑の谷間にグレンダールロッホのラウンド・タワー（円塔）が空に向かってそびえ立ち、また2つの湖のほとりには崩れ落ちた礼拝堂の姿があります。少し離れたところでは、パワーズコートの大邸宅と庭園が、過去の栄光を物語っています。

北アイルランドに目を向けると、デリーー・ロンドンデリーには、400年前、市街を取り囲むように造られた城壁が、今も完全な原形を保っています。この城壁は一度も突破を許しませんでした。据え付けられた大砲が、動乱の過去を思い起こさせます。

城、城、城

アイルランドには数多くの城が存在します。キルケニー城の威容はノルマン人占領下の時代の面影を残しています。一方、アントリムのダンルース城はヴァイキングを迎え撃った



パワーズコートの邸宅と庭園（ウィックロウ）

あります。セント・パトリックはここで亡くなったと言われています。亡骸はロバの引く荷車でダウNPパトリックまで運ばれ、埋葬されました。彼が眠る墓地の横には、現在、威厳を誇るダウNPパトリック大聖堂が建っています。

アイルランドの聖人でもう1人有名なのが、「航海者」と呼ばれるセント・ブレンダンです。彼は、西南部のケリーの海岸線にあるこじんまりとした岬から、アメリカ大陸への航海に乗り出したと言われています。

ケリーの人々は、アメリカ大陸に最初にたどり着いたのはコロンブスではなく、セント・ブレンダンだったと考えています。

動乱期の遺産

アイルランド東海岸、そしてダブリンの街には、今もヴァイキングのルーツを伝えるものが遺されています。この地でヴァイキングが活躍していた時代を思わせる、ロングボートやヘルメット、兵器などが街の通りの下から発掘され、ダブリン博物館に展示されています。オスカー・ワイルド、サミュエル・ベケット、ブラム・ストーカーといった作家たちが歩いたトリニティ・カレッジの石畳の向こうには、宝物が

要塞であり、難破したスペインのアルマダ（無敵艦隊）の生き残りがこの地にたどり着いたと言われています。アイルランド中央部・オファリー県にあるリープ城は、残忍な兄弟や誘拐された花嫁などの物語の余韻を今なお残しています。きっと、地元の人々が幽霊の話聞かせてくれるでしょう！

飢饉から饗宴へ

わずか160年前にアイルランドで起きた大飢饉は、未だに癒えぬ思いとともに記憶されています。ロスコムン県のストロークスタウン・パークと大飢饉博物館は、飢饉と貧困から逃れようと多くのアイルランド人が海外に移民した時代への追憶の証となっています。

時代が下って、人々はいっしょに自分の意志で海外移住を計画するようになりました。そうしたことから、20世紀の初頭に「夢の船」と呼ばれたタイタニック号がベルファストの造船所で誕生したのです。

本章は、アイルランドを語る上で欠かすことのできない1章であるとともに、歴史が本の中だけにとどまっていけないもう1つの理由でもありますね。



ブラーニー城（コーク県）



ダンルース城（アントリム県）

おしゃべりの才能

コーク県のブラーニー城に、「ブラーニー・ストーン」と呼ばれる石があります。この石は、バノックバーンの戦いでスコットランドがイングランドに勝利した時、アイルランドが手助けをしたことへの感謝の印として、アイルランドの王コーマック・マツカーシーに贈られたものです。ブラーニー・ストーンにキスした人は誰でも雄弁になれる（要するに、その後、喋りっぱなしの人生を送ることになる！）という伝説があり、人気を集めています。

豆知識

ダウン県のクランデボイ屋敷にあるヘレンの塔は、魅力的なスポットです。実際、その大いなる魅力に触発されたアルフレッド・テニスン卿は、「ヘレンの塔」と題する詩を書いたほどです。この邸宅は、第一次世界大戦で英国軍第36師団（アルスター部隊）がソンムの戦いに従軍して倒れるまで、訓練所として使用していました。ヘレンの塔はアイリッシュ・ランドマーク・トラストによって改修された多くの歴史的建造物の1つであり、現在は、セルフ・ケータリング（自炊設備付）の宿泊施設として貸し出されています。



ヘレンの塔（ダウン県）

贅沢を楽しむ旅

とっておきのアイランド・アドベンチャーをお望みですか？息をのむほど美しいアイルランドの景色と、質の高い旅行会社が、皆様のご旅行を一生の思い出にします。

もちろん、車やバスで行く周遊ツアーも快適です。ゴルフ、ダイビング、サーフィン、ロッククライミングを楽しめる場所もたくさんあります。けれど、それだけではありません。まるで別世界のような、特別な経験をしてみたい——そんなご希望にもお応えできます。

空の高みへ

空の旅はいかがでしょうか？熱気球に乗って見下ろす大展望は、決して他では見ることでできない特別なものです。プライベートの飛行もアイルランド全島で手配することができます。

想像してみてください。上空から見下ろすトリム城…ここは、メル・ギブソンのオスカー受賞作「ブレイブハート」のロケ地です。そして、勢いよく焚かれるバーナーの音を聞きながら、ケルトの聖地として繁栄したタラの丘、ボイン渓谷の遺跡群ニューグレンジやナウスの上空を越えていきます。あるいは、スベリン山地のスタンディング・ストーンや金鉱脈が眠る丘の上空を遊覧飛行というのはどうでしょう？地上に降りたら、アイリッシュ・コーヒードを祝杯もいいですね。

このほか、ヘリコプター・ツアーで、大西洋に浮かぶアラン諸島や、北西部コースウェイ海岸とアントリムの緑の谷を、上空から見渡すこともできます。

空を飛ぶ、と言えば、鳥たちと触れ合ってみるというのも一案です。西部メイヨー県のアッシュフォード城では、世界最古のスポーツと言われているタカ狩りを体験できま

す。専属のチューターが教えてくれるので安心です。

その後は、国内最高クラスの5つ星ホテル、アッシュフォード・キャッスル・ホテルで過ごす贅沢な時間が待っています。

アイルランドならではの体験

アデア・マナー（リムリック県）内のオールド・ライブラリーで行われる、ウィスキー・テイスティングのマスタークラスに参加してみても？ それとも、コネマラ地方（ゴールウェイ県）のバリーナヒンチ城でサーモン・フィッシングに挑戦？モハーの断崖の上に建つオブライエンズ・タワーを貸し切って、ケルティック・ハーブの音色を聴きながら美味しいシーフードとホット・ウィスキーを味わうのも良いでしょう。

一部の城や大邸宅では、賓客として迎えてもらうことも可能です。たとえば、ダウン県の美しいバリーウォルター・パークでは、ダンリース卿と夫人の手厚いもてなし



を受けながら、豪華なランチを楽しみ、午後は敷地内でアーチェリーや射撃を体験できます。

ビーチのおもてなし

アイルランドの海岸には優れたリンクス・タイプのゴルフコースが数多くあり、世界のリンクスコースの3分の1がここアイルランド島に集まっています。なかでも、オールド・ヘッド、ロイヤル・ポートラッシュ、ロイヤル・カウンティ・ダウン、そしてラヒンチの4つは特に良いコースとして知られています。

また、海岸に延々と長い曲線を描く砂丘と砂浜は、ビーチ・ライディング（砂浜での乗馬）にもぴったりです。

そうしたビーチで馬上の人となり、メイヨー県のクローパトリック山ふもとや、デリー・ロンドンデリーのムッセンデン・テンプル近くの海岸線沿いを散策してみたいはいかがでしょうか。一日の締めくくりは近くの高級レストランで、地元の味とおしゃべりを楽しんでください。



ムッセンデン・テンプルのそばでビーチ・ライディング



オールド・ヘッド・ゴルフクラブ（コーク県キンセル）



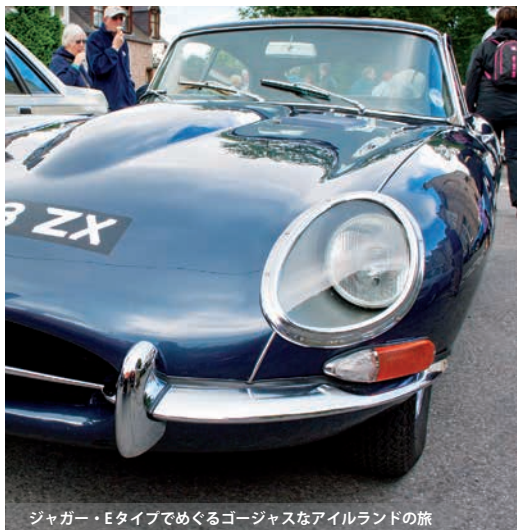
5つ星の古城ホテル、アッシュフォード・キャッスル（メイヨー県）

路上に行く

ドライブがお好きなら、レンタカーで島を周遊するのも良いでしょう。ケリー周遊路や、スリーヴ・リーグ半島をめぐる旅はいかがですか？ リムリックのHeritage Sports Carsや、ドネゴールのGolden Oldiesに電話でお申し込みいただくと、すぐに車を手配することができます。お好みの車は、ジャガー・Eタイプ？ 1970年代のトリアンフ・TR6？ それとも、フェラーリ・モンディアル？

まだ若くて免許を持っていない？ 速さも物足りない？ アーマー県クレイガボンのSuperdrive Motorsportsでは、13～17歳のスピード狂の卵たちのためにジュニア・ラリー・プログラムを提供しています。車は1200ccのボクスホール・ノヴァ。ロールケージも装備しているので安全です。

もちろん、運転手付きのツアーなら、面倒なことは全部お任せにして、シートにくつろぎながらアイルランドの絶景を楽しむことができます。



ジャガー・Eタイプでめぐるゴージャスなアイルランドの旅



ロンドンからたった1時間で味わえる、シェルボーン・ホテルでの贅沢

ビジネス旅行御用達

仕事でアイルランドへの旅を計画しているなら、それは正解です！ ロンドンから飛行機でたった1時間の距離にあるアイルランドには、素晴らしい会議場と高度な通信インフラが整っており、あらゆる段取りをスムーズに進めることができます。

申し分のないカンファレンス施設を完備した贅沢なホテルが数多くあり、専門的な用途に対応できる最先端のコンベンション・センターから、ビジネスのプレゼンテーションに加えて伝統的なアイルランドの魅力を提供できる打ち解けた雰囲気の間まで、幅広いご要望にお応えできます。

たとえば、ダブリン・コンベンション・センターは前者のタイプで、フレキシブルに使える多機能の会議室を提供しています（全22室）。環境に配慮した、世界初のカーボンニュートラルなコンベンション・センターなので、こうした会場を利用することは、会社の環境保護への取り組みに実績を付け加えることにもなるでしょう。

これに対して、アントリム県のブッシュミルズ・インは、小規模で非常に個性的な施設。有名な観光地であるジャイアンツ・コースウェイにも程近い距離にあります。合宿形式のカンファレンスを催すことができ、チーム作りの機会としても最適です。

アイルランドに数多く存在するイベント開催地管理専門会社と会議運営専門会社が、すべての企画・手配・管理・運営を請け負います。さらに、こうした専門業者は、とっておきの慰安旅行を企画するノウハウも心得ています。たとえば、キルケニーでハーリング競技を学ぶ、コネマラでアイルランドの伝統的なフレイムドラム、パウロンを自作してみる、有名な造船所を見渡すベルファスト・タイタニック博物館で晚餐会を楽しむ、など。

施設の規模にかかわらずご提供できるのが、信頼でき、お客様の要望に積極的に応える専門スタッフです。そして、長い一日の仕事を終えてリラックスしたいとき、アイルランドのパブほど心地よく一息つける場所はほかにありません！ そんなパブが、いつもすぐ近くにあるのです。



癒しのひととき

アイルランドの最も閑静な地域を覗いてみると、世界で最も上質なスパ施設が隠れています。ゆったりと羽を伸ばせるこうした癒しの聖地では、アイルランドの有名なおもてなしの心が、風光明媚な立地、そして海洋成分たっぷりの海藻風呂をはじめとする地域固有のセラピーの数々と見事に融合しています。

パーク・ホテル内の温泉施設 SAMAS (ケリー県ケンメア)

想 像してみてください。山脈の懷に抱かれるように湖畔にたたずむ、5つ星の古城ホテルでのくつろいだ時間…ここであなは、もう1度マッサージの快さに身をゆだねるか、時間を忘れて読書に浸ろうかという思いの間で揺れています…。まさに「至福」の時間です。この言葉の意味するところを、ぜひご自身で体験してください。

アイルランドのスパ(温泉)は、「コンデ・ナスト・トラベラー」誌の賞から、ワールド・ラグジュアリー・ホテル・アワードまで、数多くの賞を獲得しています。そうしたスパの多くは、人里離れた閑静な場所にあります。例えば、水面の向こうに絶景を望むインフィニティ・プール、静かな森の中で野生のシカやランを眺めるバスタイム…。ダウン県のリゾート、スリープ・ドナルドの2階建ての ESPA スパは、美しいモーン山地の角がガラス張りになっているので、山々の稜線がアイ

リッシュ海と接する雄大な東海岸の景観を見晴らすことができます。

トリートメント・メニューには、各種の伝統的なセラピーのほかに、最新のトリートメントとユニークな体験が取り入れられています。コークのフォタ・アイランド・リゾートでは、チョコレートのボディラップとダイヤモンドのボディエクスフォリエーションを提供しています。また、モナハンの古城ホテル、キャッスル・レズリーのヴィクトリア王朝風トリートメント・ルームは、特別に設計されたヴィクトリア王朝様式のスチーム・ボックスを備えています。

アイルランドのスパ・リゾートは、くつろぎと癒しだけでなく、心に残る思い出も約束します。そのときこそ、「至福」の本当の意味もお分かりいただけることでしょう。

伝統的なアイルランドのセラピー

海水、海藻、海泥などを使用する海藻トリートメントやマリン・トリートメントは、質の高い治癒効果と栄養分補給で有名です。アイルランドでは、澄み切った海岸から採集されるこのような自然資源が100年以上にわたって利用されてきました。Voyaは、スパの分野でアイルランドの海藻に国際的な注目を引き付けた化粧品メーカーです。スライゴ県ストランドヒルの海辺にあるVoyaのスパには、特別な体験を求める人々が訪れます。そこで使用されている製品は、大西洋岸から手作業で採集される有名なオーガニック海藻オイルを原料としています。この施設では、フェイシャルと海藻のボディラップを提供していますが、一番のおすすめは、海藻で満たされた浴槽に50分間浸かるトリートメントです。



おしゃべりな国、 アイルランド

アイルランドの人々は、「“the gift of the gab”（弁舌の才）がある」と言われるくらい、おしゃべり好きな国民性。ですから、アイルランド島が英語学習の場として定評があるのも当然と言えるでしょう。

アイルランドには、言葉に対する心からの愛情があります。アイルランド人特有の陽気な口調はさておいても、ストーリーテリング（語り部）の文化、そして文学への愛は、私たちを、口語と文語の両方で、無類の言葉好きに仕立てたのです。

なぜアイルランド？

アイルランドでは誰もが英語を話します。アイルランド特有の言い回しもありますが、それにもすぐに慣れるでしょう。定評ある文学遺産、優れた語学学校、整備された交通網、そして活発な文化的な生活…。こうした要素が結び付いたアイルランドこそ、理想的な英語学習環境なのです。

教育水準は非常に高く、アイルランドの大学は世界最高レベルとの評価を得ています。住民は温かいもてなしで有名で

あり、家族を重視する価値観を中心とした真の意味での安全と安心感が存在します。美しい田園地方から活気に満ちた都市まで幅広く滞在地を選べるアイルランドは、単なる留学先であるにとどまらず、生涯忘れられない土地となるでしょう。

家族で留学

このたび、語学学校が家族全員で語学留学ができるプログラムの提供を始めました。ご両親が短期集中講座または夏期講座を受講している間、お子さま方は、遊びの要素も取り入れた英語講座を受講できます。十分な資格と経験を持った教師が指導を担当します。家族旅行の新しいプランに、ぜひご検討ください。

では、その他のさまざまな留学スタイル、学習コースのタイプをご紹介します。

ワーキング・ホリデー・プログラム

ワーキング・ホリデー・プログラムは、アイルランド政府と日本政府の主導のもとで、日本国籍を有する青少年に対して、最長1年間の長期休暇としてアイルランドに滞在し、その休暇の一環として一時的に就労する機会を与えるものです。この制度の目的は、日本の青少年に対して、アイルランドの文化、風景、国民に接する機会を提供するとともに、長期休暇を過ごしながらかそこで就労と英語学習の機会も得られるように取り計らうことです。

大学留学

アイルランドの高等教育機関への留学は、学問・文化両方の側面において、他では得られない、人生を豊かにする経験ができるでしょう。夏期コースや、セメスター留学、一年間の留学と、さまざまなオプションがあり、海外の大学との単位互換制度も充実し、留学生の受け入れにも積極的です。

アイルランドってどんな国？

アイルランドの人口の40%は25歳未満の若者で、活力にあふれています。学生として暮らすにはとてもエキサイティングな土地です。

技術と教育水準の高い有能な労働力を必要とする企業は、ヨーロッパにおけるビジネスの拠点にアイルランドを選んでいきます。Google、Facebook、Pfizer、Apple、Intel…いずれもアイルランドに拠点を置いています。

アイルランドは英語圏の国であり、全世界の英語圏の国や地域との間に緊密な結び付きがあります。

アイルランドは友好的で安全な国です。それは、旅行ガイド「ロンリープラネット」が、アイルランドを「世界で最も友好的な国」に2度選出していることでも証明されています。



家族みんなで英語を勉強



伝統スポーツ「ハーリング」に挑戦



授業の合間にグレンダローホへの遠足



学校がさまざまなアクティビティを手配—サーフィンも可能



授業時間外に景色を楽しむ



ハイキングは頭のリフレッシュに最適

さまざまな学習コース

学校団体

12～17歳の子どもたち向けに、英語学習と、多彩なスポーツ活動や文化活動に参加できるコースが設けられています。生徒たちは、寮で共同生活をするか、ホストファミリー宅に寄宿します。アイルランド人の家族と生活を共にすることは、アイルランド文化をより深く理解し、英語漬けの生活をする事ができるという点で有益な機会となります。滞在期間は通常、最短でも2週間です。

成人

英語力を強化したい成人は、年間を通じて開講している一般英語コースを選択することができます。このコースは、定員15名のクラスで毎週約15～20時間の授業が行われます。クラスでは、生徒が積極的に授業に参加し、自信を付け、実践的で優れた英語の知識を身に付けるよう促します。入門クラスから上級者向けまで、幅広いクラスが用意されています。また、多くのコースには修了テストがあり、国際的に認知された資格を得ることができます。

オペア

オペア (au pair) は、外国語学習者が、ホストファミリー宅で子どもの世話や簡単な家事を手伝うことにより、三食付きの部屋と対価としての小遣いの提供を受けるという制度です。オペアの利用者は、その期間、家族の一員であると思われ、家庭に温かく迎え入れられます。オペア制度の利用は、若者が外国語を学習しながら地域文化を経験することのできる優れた方法です。また、アイルランドを楽しむ経済的な方法でもあります。オペア利用者は、通常、航空券の代金とアイルランド滞在中に受講する語学コースの料金を負担します。

ビジネス英語

英語は、ビジネスの世界共通語として広く受け入れられているため、グローバル経済では英語に堪能であることが必要不可欠です。アイルランドは、多くの国際企業の欧州本社の拠点となっており、スペシャリスト向けの専門コースには定評があります。そうしたコースは、特に、世界各地から訪れるビジネス関係者のニーズに対応しており、小グループ制やマンツーマン制も提供しています。法律および医療分野の英語のための専門コースも手配することができます。



純然たる気品漂うウォーターフォード・クリスタル

伝統を買い ショッピング

アランセーター

アイルランドの象徴的な衣服は、クリーム色をした「アランセーター」です。元来、アラン諸島で漁師たちのために編まれていたこのセーターは、伝統的に、ある程度の油脂分を残して洗浄された羊毛を使っていました。これは耐水性を高め、濡れても着用できるようにするためです。西に向けて出航し、大西洋を越えていく漁師には、それが理想的だったからです。近頃は、より肌に優しい羊毛が使用されています。

アランセーターは今ではアイルランド国内どこでも買うことができますが、それでもあえてフェリーに飛び乗り、アランセーター発祥の地であるアラン諸島まで買いに行くというのも素敵です。

スーツケースには余裕を残しておきましょう。アイルランドの工芸品やデザイナーズブランドのショッピングのためです！ウォーターフォード・クリスタルやベリック・ポタリーなどでは、作品が作られる様子を目の前で見学することもできます。

アートとクラフトが地域社会の生活の原動力の一部となっているアイルランド。さあ、どこから旅を始めましょう？まずはキルケニーに行ってみましょう。キャッスルコマー・エステート・ヤードのアーツ&クラフツ・センターでは、手吹きガラス器と手彫りの木製椀が、作者自身によって展示されています。

北に向かい、ティロン県のベンバーク・ブライオリー・コテージの工房に、バスケットの製作者アリソン・フィッツジェラルド氏を訪ね、数世紀に渡り受け継がれてきた伝統の技を見学しましょう。隣のファーマナ県では、1849年創業のベリック・ポタリーから陶磁器製作の歴史の一端を持ち帰ることができます。

キルデア県のニューブリッジ・シルバーウェアは、銀製のカトラリーと宝飾品で知られています。ダイアナ妃やマイケル・ジャクソンなどのファッション・アイコンが寄贈した記念品のコレクションも見逃せません。

ウォーターフォード・クリスタルの工場見学も魅力的で、工匠たちが吹き込み形成、切削、彫刻を実演してくれます。併設の店舗でそのクオリティの高さをご自分の目で確かめください。

モダン・クラシックがお好きならば、ダブリンのグラフトン・ストリートに向かい、バーバリー、ルイ・ヴィトン、プラダ、シャネルなどのブランドを揃えた高級百貨店ブラウン・トーマスをのぞいてみましょう。ビッグ・ネームが割安で手に入るキルデア・ビレッジ・アウトレット・センターにも1時間未満で足を延ばせます。

ベルファストでも大勢の才能ある若いデザイナーが活躍しており、リスバーン・ロードは個性的なファッションをお求めなら最初に訪れたい場所です。

どうやら、追加のスーツケースも必要になりそうですね！



お気に入りのブランドを買って帰る

パブ・ライフ

アイルランドのパブは一種の公共施設です。昔から、パブは地域の集会所であるとともに、葬儀屋、金物屋、食料品・雑貨店など、さまざまな役割を兼ねていました。古いパブの中には、今でもよろずや的な店として営業している店もあります。

ダブリンのギネス、コークのマーフィーズやビーミッシュといった、地元産のビールで喉を潤してはいかがでしょうか。

もちろん、アイルランドはウイスキーでも有名です。ダブリンとコークにあるオールド・ジェイムソン蒸留所のビジターセンターや、アイルランド最古の蒸留所であるアントリム県のブッシュミルズを訪れば、その製法のすべてを学ぶことができます。

アイルランドの味わい

アイルランド島を深く味わうには、地元の食べ物が一番！スモーク・サーモンや伝統的なアイリッシュシチューから、ドライエイジドビーフ（乾燥熟成させた牛肉）、香り高いシーフードまで、その味わいをご堪能いただきたい料理・食材はたくさんあります。

熟練した生産者の提供する食材は非常に品質が高いため、その風味の良さは言うまでもありません。

レストラン The Pig's Ear (ダブリン)

ア ルスター・フライを味わうことなしに、ベルファストを本当に体験したことになりません。太陽の降り注ぐ東南部を訪ねたら、ウォーターフォードのロールパン 'blaa' を食べずに素通りすることは許されません。コネマラ地方では？何といってもラム料理です。コークのクロナキルティと言え？ブラック・プディングです。「ダブリン・ベイ・ブローン」や「ネイ湖ウナギ」は、どこの特産物が明らかですね！どの地域を訪れても、アイルランドの伝統的な食べ物に出会うことができるのです。ファーマーズ・マーケットで過ごす午後は、田園生活に触れるのに最高です。あるいは、各都市のフード・トレイルをたどれば、その街の個性を舌で味わうことができます。どの街にも名物料理があるからです！



ミシュランの星を獲得したクリフ・ハウス・ホテルの上質な料理

ミシュラン・クオリティ

アイルランドにもミシュランの星付きレストランがあります。たとえば、ウォーターフォード県のクリフ・ハウス・ホテル、ダブリンのチャプター・ワンなど。アイルランドで人気のある星付きレストランは、お値打ちの高級ランチのほか、お得なアーリーバード・メニューやブレスアター・メニュー（早めの夕食）を提供しています。ミシュラン・ガイドは、良心的な価格設定と卓越した料理を両立させたレストランに対する評価も行っています。この評価を受けたレストランとしては、コーク県のフィッシャー・フィッシャー・カフェ、ゴールウェイ県のおダウス、そしてベルファストのカイエンがあります。小さな島としては立派なものです！…自画自賛はさておき、美味しい料理を出すパブも忘れてはいけません。ガストロ・パブの定番は、フィッシュ&チップス、アイリッシュシュチュウ、カニの爪、トリ貝とムール貝、ダブリン・ベイ・ブローン（ヨーロッパアカザエビ）、コネマラ産ラム、そしてステーキ&ギネス・パイなどです。

料理学校

ソーダ・ブレッドやボックスティ（ポテトケーキ）などの伝統料理でお腹が一杯になると、今度はその作り方を知りたくなりますね。風光明媚な場所にある著名な料理学校に、アイルランド料理の美味しいレッスンを受けに行きましょう。コーク県のオーガニック・ファームの敷地に建つバーリマール料理学校、港を一望するダウン県のモーン・シーフード料理学校、そして、ファーマナ県のベル・イルなど、たくさんの学校があります。



素晴らしい食材とエキスパートの指導



アイルランドの伝統的な生産農場に滞在する

ファーム・ステイ

ファーム・ステイは、アイルランドの田園地方の温かいもてなしと美味しい家庭料理をいっぺんに楽しめる素晴らしいプランです。デリー・ロンドンデリー県のアッシュ・パーク・ファームでは、美しいスプリング山地を見晴らす豪華なテントに宿泊しながら、自分の食べる卵を集めたり、ベリーを摘んだりするなどの農作業を体験することができます。また、カーロウ県の田園の荒涼とした大自然の中に建つ、受賞歴のあるクーラノウル・カントリー・ハウス&オーガニック・ファームでは、農場の有機野菜や果物が美味しい料理となって、アフタヌーン・ティー、ディナー、朝食に供されます。

アイルランドのリズム

ヨーロッパ西海岸の端から、アイルランドの音楽は世界へと広がりました。琴線に触れるエンヤの歌声、観衆を熱狂の渦に巻き込むスノウ・パトロール、そしてロックの永遠の王様として君臨し続けるU2……。

彼らを生んだのは、豊かな音楽の土壌でした。カントリー・パブの伝統的なセッション、気取らない街中のギグ、道端でのコンサート……アイルランドは音楽の響きとともに生きているのです。

伝 伝統的なアイルランド音楽は、その源泉で聴くのがベストです。つまり、地元パブのセッションです。疾走するフィドル、息もつかせぬティン・ホイッスル、激しくかき鳴らされるギター……。その演奏は、こぢんまりとしたパブの片隅でこそ本領を発揮します。バーから得るわずかなギャラを除けば、プレイヤーが報酬を得ていることは稀です。大西洋の端に位置する、ここアイルランドでは、音楽とはすなわち情熱なのです。

ケリー県トラリーのシャムサ・ティーラはアイルランドの国立民俗劇場であり、アイルランドの妖精物語をテーマとしたダンスから島の生活を歌ったミュージカル・オデッセイまで、さまざまなプログラムが上演されています。島の反対側にあたるデリー・ロンドンデリーでは、ハイランド地方の影響を受けたアルスター・スコッツ文化の音楽と踊りが、この街の城壁の周囲で沸き立っています。スノウ・パトロールとヴァン・モリソンは、テレビとラジオでお馴染みの存在となる前に、ベルファスト市を席巻しました。また、ダブリンにはライブ・ハウス「ウィーランズ」があります。ここはダミアン・ライスが音楽活動を本格的に開始した場所です。そして、ウィンドミル・レーン・スタジオは、U2が大ヒットアルバム「ザ・ジュノー・プロジェクト」のレコーディングを行った場所です。

つまり、パブでは自然発生的にコンサートが始まり、あらゆる場所で未来のスターたちが音楽を奏で、文化のすべてがダンスという形で演じられる……そんなアイルランドを訪れるなら、MP3プレーヤーを持参する必要はないかもしれません。



地元のバブでの伝統的な Seisiún

お気に入りの SeisiúnとCéilíを 見つける

伝統音楽に触れる機会が最も多く得られる2つの場が、Seisiún（セシューン）とCéilí（ケーリー）です。伝統音楽セッションであるSeisiúnは、ミュージシャンたちの気楽な集まりのようなものであり、パブで行われるのが普通です。

多くの場合、1本のギターで始まりますが、すぐにフィドル弾きが加わり、さらにフルート、バンジョー、パウロン、そしてランベグ・ドラムのプレーヤーらが集まってきます。Seisiúnでは踊ることより聴くことが主体ですが、ふいにダンスの輪が生まれることも珍しくはありません。アーマーやティロンでは、アルスター・スコッツのセッションに出会うかもしれません。これは、たとえば、クエア県などで見られるくつろいだ雰囲気セッションよりも、やや形式張ったものですが、その楽しさは同じです！

Céilíでは、なによりダンスが主役であり、伝統音楽のミュージシャンが曲を演奏します。



音楽を奏でるフィドルーたち



U2のジ・エッジとボノ



パウロンを叩く

スポーツ観戦と アウトドア・ アクティビティ

アイルランドのスポーツについて、人々の情熱を抜きに語ることはできません。アイルランド古来のスポーツであるゲーリック・フットボールとハーリングは、熾烈に燃え立つ誇りをかけながら、さらに熱い友情とともに戦われます。アイルランドのゴルフ・コースからは、ローリー・マキロイやパドレイグ・ハリントンといった世界チャンピオンが生まれており、また、これに比肩する素晴らしい成果がアイルランドの競馬イベントからも生まれています。

一方、緑豊かな湖沼地方と大西洋はウォーター・スポーツの舞台です。アイルランドで屋外に出て活動しないのは、もったいないと思いませんか？

アイルランドでカイトサーフィン

ゴルフ場で「ティー」タイム

素晴らしいゴルフ・コースは素晴らしいプレーヤーを生み出します。全米オープン優勝者のローリー・マキロイやグレアム・マクドウェル、あるいは全英オープン優勝者のダレン・クラークといった選手がその証しです。こうした選手の勝利への道はいずれもすべて、まさにこの地から始まったのです。アイルランドのゴルフ・コースは、難関で挑戦的なコースである一方で、圧倒的な景観を兼ね備えています。北岸のロイヤル・ポートラッシュは海岸の美観の中にうねるカーペットのように広がり、ロイヤル・カウンティ・ダウンは自然保護区の中にあります。キルデアの優雅なKクラブではライダーカップが開催され、キリン・キャッスルの女子対抗ソルハイムカップでは、キリン城に隣接するコースで熱戦が繰り広げられました。どのコースも美しく、難しく、とにかく回ってみる価値があります。



山の麓に設けられた素晴らしいリンクス・コース



競馬を楽しむ一日

馬力

12月、冷気に身に引き締まる冬の日…。しかし、大草原のようなキルデア県の景色の中で、ここ、すし詰め状態の観覧席は熱気であふれ、隣の人が興奮で身震いしているのが伝わってきます。ワン…ツー…スリー…各馬、一斉にスタート！20頭の馬が各ゲートから飛び出し、ゴールに向かって熾烈なレースを展開します。アイルランドで身をもって体験する競馬イベントの興奮は特別なものです。東部にはバンチェスタウン競馬場、西海岸にはゴールウェイ競馬場があり、北アイルランドにも熱狂に沸くタウン・ロイヤル競馬場があります。勝ち馬の予想情報が地元のパブで取り交わされ、ご婦人たちは一番おしゃれな帽子をかぶり、家族全員が招待されます。これはまさに「王者の楽しみ」です。

いい波が来た！

島国アイルランドがウォーター・スポーツのメッカであることは周知の事実です。カヌーやカヤックで迷路のようなファーマナの湖沼地方を探索したり、ヨットでコーク県のコーヴやアントリム県のバリーキャッスルのような快適な港へと帆船したりするなど、海や湖が大好きな人にとっては天国のような場所です。最近、CNNとナショナル・ジオグラフィックは、水に関連するアイルランドのもう1つの素晴らしい魅力を取り上げました。サーフィンです。サーフ・チャンピオンであるケリー・スレーターの言葉を借りれば、アイルランドのサーフ・スポットは「冷たい楽園」であり、その岩だらけで荒涼とした大西洋岸は「完璧な波」を生み出しています。このようにドネゴールからコークまで、ハワイも羨むような素晴らしい波が打ち寄せています。派手なライドを決める場面を夢見ているとしたら、アイルランドはまさにうってつけの場所です。

豆知識

「ゲーリック・ゲームズ」と総称されるアイルランド固有の伝統スポーツには、ハーリング、ゲーリック・フットボール、カモギー（女子ハーリング）、レディス・フットボール、ハンドボールがあり、すべてアマチュア・スポーツです。一説によると、伝説の戦士クーフーリンは、ハーリングのボールとスティックを兵器として持ち歩いたと言われていますが、ハーリングの試合を観戦すれば、それを理解できるでしょう！

旅の計画

ここでは、アイルランドへの旅を手配する前に知っておくべきことをご説明します。

ビザ

【アイルランド】

日本国籍所有者は査証（ビザ）不要。ただし、3ヵ月以上滞在する場合は、ダブリンではGarda National Immigration Bureau (GNIB) で、それ以外の都市では所轄の警察署で外国人登録が必要です。また、緊急時の連絡のため、入国後1ヵ月以内に在アイルランド日本大使館宛に在留登録手続をしておくとい良いでしょう。

Garda National Immigration Bureau (GNIB)

住所 13-14 Burgh Quay, Dublin 2

TEL: 01-666-9100

【北アイルランド】

駐日英国大使館にご確認ください。

TEL: 03-5211-1100

アイルランド島へのアクセス

【空路】

日本からの直行便は就航していませんが、ヨーロッパ主要都市からは多くの定期便があるので乗り継ぎは容易。日本からヨーロッパ各都市への直行便を利用すれば、ほとんどの場合、同日乗り継ぎが可能で、その日のうちに到着できます。ロンドンからは1時間足らずのフライト。国際空港は、ダブリン、ベルファスト、コーク、シャノン の4つ。

【海路】

イギリスとフランスからフェリーでアクセス可能。主要な国際港は、ダブリン、ダンレアリー、ベルファスト、ラン、ロスレア、コークの6カ所。

宿泊施設

【ホテル】

アイルランドは温かいもてなしで知られており、旅行者の方にはまずホテルでそのことを実感していただけるでしょう。広大な古い田舎屋敷から、シックでモダンなリゾート施設まで、予算に応じて選択することができます。

【ベッド&ブレイクファスト (B&B) とゲストハウス】

フレキシブルな宿泊施設で、全国どこへ行っても見つけることができます。

地元の情報に通じたオーナーが、その土地ならではの見どころやアクティビティについて教えてくれることも。

【セルフ・ケータリング】

自炊設備付の宿泊施設で、身内だけの自由な時間を満喫す



ることができます。特に家族やグループに人気があります。岩だらけの海岸に人里離れて建つコテージ、居心地の良い村の家屋、市街地の立派なタウンハウスなどから選ぶことができます。

【ホステル】

ホステルは、豪華さはなくても、費用の面ではお得でしょう。多くの都市や町にあります。年齢も境遇も千差万別な人々が社交的な雰囲気の中で同宿するので、新しい友達を作るのに最適です。

【一味違う宿】

古城やバブに部屋を借りたり、灯台に泊まったり、船に滞在しながら水路に行く旅はいかがでしょう。事が宿泊施設とあらば、既成の枠にとらわれないのがアイルランドです！

国内での移動

アイルランドは小さな島なので、空路、道路、鉄道のいずれでも容易に移動できます。

【車】

アイルランドの道路は全般的に高い水準にありますが、田園地方では、道が狭く曲がりくねっている場合もあります。道路は全島で日本と同じ左側通行です。レンタカーの営業所は、空港、港、都市の中心部にあります。運転には日本の運転免許の他に、国際免許をご用意下さい。

【飛行機】

アイルランド島の大きさを考えると、国内線を利用する必要性は少ないですが、主要な空路としてはダブリン＝ケリー線があり、約40分のフライトです。また、アラン諸島の3つの島すべてに定期便が就航しています。

【公共交通機関】

鉄道網は全島を網羅しており、アイルランドではアイリッシュ・レイルによって、北アイルランドではノーザン・アイルランド・レイルウェイによって運行されています。ダブリンの近郊電車であるダート (DART) はダブリンの海岸線と市街地を走っており、路面電車のルアス (Luas) には市の南部と中心部を結ぶ2つの路線があります。

長距離バスや路線バスでの移動は、経済的でリラックスした旅を可能にします。アイルランドのバス・エアランと北アイルランドのトランスリンクが、アイルランド全島でコーチ・ツアーを運営しています。また、民間のコーチ・ツアー運営事業者、空港送迎、都市間連絡、ゴルフ旅行などにも非

常に多くの選択肢があります。

通貨とカード

【通貨】

アイルランドの公式通貨はユーロ(€)です。北アイルランドでは英国通貨のポンド(£)が使用されています。

【銀行とクレジットカード】

Visa、MasterCard、American Expressが広く普及しています。他のカードについては、使用前に確認しておいた方が良いでしょう。ATMは、銀行のほか、町や市の中心部にも設置されており、ほとんどのクレジットカードとデビットカードを利用することができます。

【両替】

空港の両替所や市内の銀行、郵便局、観光案内所、一部ホテル等で両替できます。また大手銀行発行の国際キャッシュカードを使用して24時間稼働のATMから現地通貨で引き出すことも可能です。

言語

アイルランド人は、おしゃべり好きで有名です。現地に着けば、そのような評判の理由がお分かりいただけるでしょう。アイルランド全島で日常的に英語が使用されています。

アイルランドの一部、「ゲールタクト」と呼ばれる地域ではアイルランド語(ゲール語)が使われています。ケルト語派の言語であり、世界最古の言語の1つであるアイルランド語は、現在も全国の学校で教えられています。北アイルランドの一部地域ではスコットランド語の一種であるアルスター・スコット語が話されています。

緊急時の連絡先

旅行中に緊急連絡先を必要としないことを願いますが、万が一に備え、ここに記載しておきます。

警察／消防／救急車

【アイルランド】 TEL: 112 または 999

【北アイルランド】 TEL: 999

日本大使館

【アイルランド】

在アイルランド日本大使館

住所 Nutley Building, Merrion Centre, Nutley Lane, Dublin 4

TEL: 01-202-8300

【北アイルランド】

在英国日本大使館(ロンドン)

住所 101-104 Piccadilly London W1J 7JT

TEL: 020-7465-6565

車両故障時

アイルランドではAutomobile Associationがロードサービスを行っています。最低1年間の会員として登録しておかなければなりません。料金は約220ユーロです。

Automobile Association (AA) Breakdown Service

TEL: 1800-66-77-88

www.aaireland.ie

北アイルランドの場合は、Royal Automobile Club (RAC)に連絡してください。ウェブサイトには短期の補償範囲とロードサービスの価格リストが掲載されています。

Royal Automobile Club (RAC) Breakdown Help

TEL: 0844-891-3111

www.rac.co.uk

天気

メキシコ暖流の影響で、アイルランドの気候は年間を通じ

て比較的穏やかで温暖です。天気は変わりやすいですが、極端な現象は稀です。

時差

日本との時差はマイナス9時間。サマータイム期間(3月最終日曜日から10月最終日曜日まで)はマイナス8時間。

平均気温(アイルランド全域)

| | 昼 | 夜 |
|--------|-------|-------|
| 1～2月 | 8.3℃ | 1.7℃ |
| 3～4月 | 10.6℃ | 2.2℃ |
| 5～6月 | 16.1℃ | 7.2℃ |
| 7～8月 | 17.2℃ | 10.6℃ |
| 9～10月 | 15.0℃ | 6.7℃ |
| 11～12月 | 9.4℃ | 2.8℃ |

宗教

最も広く信じられている宗教はキリスト教ですが、住民は、幅広い信仰と信念を受け入れています。アイルランド島には、極めて多岐にわたる礼拝施設があり、特別な戒律に対応できる専門的な食料品店やレストランのほか、特定宗派向けの宿泊施設も幅広く存在しています。いずれも、極めて多様な宗派を快く受け入れるアイルランドの文化を反映するものです。

喫煙

アイルランドと北アイルランドには禁煙条例があります。屋内の就業場所で喫煙することは違法であり、これはすなわち、パブやレストランから、店舗、オフィス、そして公共交通機関に至るまで、あらゆる場所が禁煙であることを意味します。ただし、例外も存在しており、一部のホテルやゲストハウスは喫煙室を提供しています。また、パブ、ナイトクラブ、ホテルでは、通常、屋外の路上または庭園内に喫煙場所を設けています。吸い殻は必ず所定の灰皿に入れてください。これを守らない場合、不法なゴミ捨てとして100ユーロの罰金が科せられることがあります。

チップ

アイルランドには、チップに関する厳格なルールはありません。一部のレストランでは、「サービス料」が適用されています。これは、チップの代金が勘定書に含まれているため、追加料金を支払う必要はない、ということです。サービス料が適用されていない場合は、お客様の判断となります。チップの平均的な額は規定料金の10～15%ですが、義務はありません。パブではチップを渡さないのが一般的ですが、カウンター席ではなく、テーブル席で給仕を受けた場合はこの限りではありません。

電圧と電気器具

アイルランドでは220～230V、50Hz。北アイルランドでは240V。ソケットは両国ともに3本足(BFタイプ)が最も普及していますが、一部2本足(Cタイプ)のところもあります。

国際電話

【日本⇒アイルランド】

(国際電話識別番号)-353(アイルランド国番号)-(市外局番の最初の0をとった番号)-(相手先の電話番号)

【日本⇒北アイルランド】

(国際電話識別番号)-44(英国国番号)-(市外局番の最初の0をとった番号)-(相手先の電話番号)

【アイルランドおよび北アイルランド⇒日本】

00(国際電話識別番号)-81(日本国番号)-(市外局番の最初の0をとった番号)-(相手先の電話番号)

【アイルランド⇒北アイルランド】

048-(相手先の電話番号。市外局番不要)

【北アイルランド⇒アイルランド】

00-353-(市外局番の最初の0をとった番号)-(相手先の電話番号)

おすすめ ドライブ・プラン

アイルランドは小さな島ですが、それは、わずかな時間で非常に多くの素晴らしい体験ができるということでもあります。では、安全運転で、行ってらっしゃい！

海岸線一周の旅

10日間

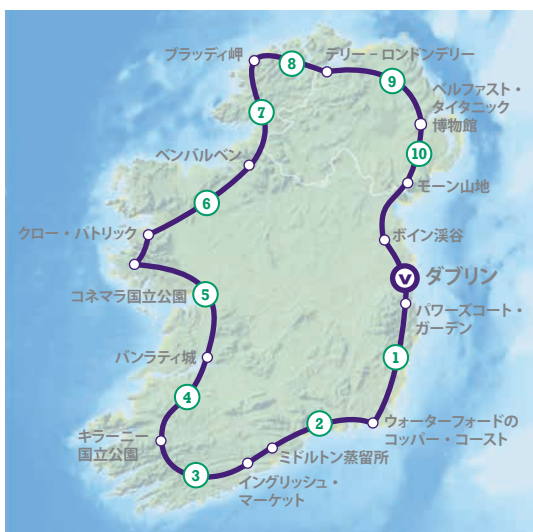
合計走行距離:

1,627 km

1,022 マイル

主な見どころ

- 1日目: ダブリンからパワースコート・ガーデンへ (ウィックローウ県)
- 2日目: ウィックローウからウォーターフォードのコッパー・コーストへ、さらにコークのミドルトン蒸留所とイングリッシュ・マーケットへ
- 3日目: コークからキラリー国立公園 (ケリー県) へ
- 4日目: ケリーからバンラティ城 (クレア県) へ
- 5日目: クレアからコネマラ国立公園とクロウ・バトリック (メイヨー県) へ
- 6日目: メイヨーからベンバルベン (スライゴ県) へ
- 7日目: スライゴからブラッディ岬 (ドネゴール県) へ
- 8日目: ドネゴールからデリー・ロンドンデリー市の城壁へ
- 9日目: デリー・ロンドンデリー市からベルファスト・タイタニック博物館へ
- 10日目: ベルファストからモーン山地 (ダウン県) およびボイン渓谷 (ミース県) へ、その後ダブリンに戻る



「ワイルド・アトランティック・ウェイ」の旅

10日間

合計走行距離:

2,500 km

1,500 マイル

主な見どころ

- 1日目: マリン・ヘッド (ドネゴール県) を出発し、ファナド・ヘッドを経て、ダンロー (ドネゴール県) へ
- 2日目: ダンローからスリーヴ・リーグの断崖を通り、ドネゴール・タウンへ
- 3日目: ドネゴール・タウンからマラックモア・ヘッドを経てバリナ (メイヨー県) へ
- 4日目: バリナからアキル島を経てウエストポート (メイヨー県) へ
- 5日目: ウエストポートから、コネマラ地方のキラリー湾を経てゴールウェイ市へ
- 6日目: ゴールウェイ市からモハーの断崖へ、その後キルキー (クレア県) へ
- 7日目: キルキーを出てループ・ヘッドへ、さらにトラリー (ケリー県) へ
- 8日目: トラリーからディンクルおよびディンクル半島へ、そしてアイベラ半島のスケリックス・ビューポイントを通り、ケンメア (ケリー県) へ
- 9日目: ケンメアからベアラ半島を回り、バントリー (コーク県) へ
- 10日目: バントリーからミゼン・ヘッド、クロナキルティを通り、キンセール (コーク県) へ





ケリー周遊路

2日間

合計走行距離:
179km
111 マイル

主な見どころ

- 1日目：シャノン空港から出発し、キラニー国立公園へ、そしてケンメア、スニーム、ウォーターヴィル、スケリッグ・ヘリテージ・センターを経て、ロスバイへ
- 2日目：ロスバイから、インチ・ストランド、キログリンに向かい、さらにキラニーの湖沼群に囲まれたマックロス・ハウスを訪ね、マックリカディーズ・リークスの山々を展望する

アイルランド内陸

6日間

合計走行距離:
1,052km
653 miles

主な見どころ

- 1日目：ベルファストからスペリン山地およびアルスター・アメリカン・フォーク・パーク（ティロン県）へ、さらにエニスキレンへ
- 2日目：エニスキレンからクロンマクノイズ（オフアリー県）へ
- 3日目：クロンマクノイズからロック・オブ・キャッセル（ティエラリー県）へ
- 4日目：ティエラリーからキルケニー市へ
- 5日目：キルケニー市からトリム城とボイン渓谷（ミース県）へ、さらにキャリックマクロス（モナハン県）へ
- 6日目：モナハンからアーマー県博物館（アーマー県）、ナヴァン・フォート、さらにアイリッシュ・リネン・センター（ダウ県リスバーン市）を訪ねてから、ベルファストに戻る



コースウェイ沿岸道路

2日間

合計走行距離:
193km
120 マイル

主な見どころ

- 1日目：ベルファスト・ミュージック・ツアーに参加し、ベルファストを出て、キャリックファergus城、グレナリフ森林公園、バリーキャッスルへ、そしてラスリン島の景観を望み、さらにキャリック・ア・リード吊り橋を歩いて渡ってから、オールド・ブッシュミルズ蒸留所に向かう
- 2日目：オールド・ブッシュミルズ蒸留所からジャイアンツ・コースウェイ、ダンルース城、そしてマッセンデン・テンブルへ、それからデリー - ロンドンデリー市に向かう



Ireland



Whilst every care has been taken to ensure accuracy in the compilation of this map, Tourism Ireland cannot accept responsibility for errors or omissions. Due to the small scale of this map, not all holiday centres can be shown. The information on this map is correct at time of going to press. © 2015 Tourism Ireland. Map creation by Michael Schmeling, www.maps.arcidocan.com | Map data © OpenStreetMap contributors, CC BY-SA